

山口県農林総合技術センター
人材育成・新技術開発推進計画

(計画期間：2022年度～2026年度)

令和5年3月

山口県農林総合技術センター

目 次

I	推進計画の策定	1
II	推進目標	4
III	農林業産学公連携プラットフォーム体制の構築（体制整備）	5
IV	人材育成・新技術開発の展開方向	
1	人材育成	6
	（1）学校教育等と連携した農林業の人材確保と理解促進	
	（2）実践的な学修・研修による中核経営体を支える人材の育成	
	（3）就業先の実情を踏まえた就農・就業意識の醸成と定着支援	
2	新技術開発	8
	（1）本県の特性に応じた「山口型スマート技術」の開発・実装【デジタル】	
	（2）環境負荷低減・脱炭素化につながる技術の開発・実装【グリーン】	
	（3）気候変動等に対応した安心・安全につながる技術の開発・実装【安心・安全】	
	（4）高付加価値品種等、所得向上につながる技術の開発・実装	
	（5）中核経営体等の経営安定対策につながる研究	
3	連携・交流	12
	（1）地域資源の価値を高める6次産業化等の支援	
	（2）農林業や食に対する理解促進および情報発信機能の強化	
V	知的財産権の創造と活用	13
1	知的財産の創造	
2	権利の保護・管理	
3	品種・特許の活用促進	
VI	人材育成・新技術開発に係る職員の資質向上	13
1	研究開発能力の強化及び研究活動の公正性の確保	
2	普及指導員等技術職員の養成	

（参考） 主要な試験研究課題一覧

I 推進計画の策定

1 趣旨

農林総合技術センター（以下、「センター」という）は、これまで令和4年度を目標年度とした「山口県農林総合技術センター研究開発・担い手育成推進計画」を策定し、現場の技術課題の解決に直結する研究開発や日本一の担い手支援策の推進拠点として教育・研修を実施してきました。

こうした中、農林水産部では、このたび、新たな県政運営の指針「やまぐち未来維新プラン」の策定に合わせ、「やまぐち農林水産業振興計画」を策定しました。

この計画では、令和5年4月に供用開始する「農林業の知と技の拠点」等を核として、担い手の安定的な確保を図るとともに、生産性の向上や需要拡大に資するデジタル技術の普及・定着、環境負荷の低減に向けた新技術の開発・導入等を進め、生産性と持続性を両立した強い農林水産業を育成することとしています。

このため、センターでは、これらの新たな計画と一体的に担い手の確保・育成や先端技術の研究開発を推進することとし、前計画を見直し、さらなる取組の重点化、レベルアップを図ります。

2 名称

山口県農林総合技術センター人材育成・新技術開発推進計画

3 計画期間

2022年度（令和4年度）～2026年度（令和8年度）の5年間

4 基本的考え方

「やまぐち農林水産業振興計画」の4つの柱

- ① 成長を支える多様な人材や中核経営体の確保・育成
- ② 県産農林水産物のさらなる需要拡大
- ③ 需要の変化に対応した持続可能な生産供給体制の確立
- ④ 産地の維持・拡大に向けた基盤整備と防災力強化

のうち、とりわけ「農林業の知と技の拠点」を核とした以下の3分野を重点取組事項として位置付け、「農林業産学公連携プラットフォーム体制」を構築し、一層の推進を図ります。

(1) 人材育成の強化

農林業の新規就業者や中核経営体を効率的に育成するため、学生教育や社会人研修を再編・強化します。

(2) 新技術開発の強化

高度で多様化する生産現場の課題を解決するため、国や大学、民間企業等との連携を一層強化し、AIやICT等を活用したデジタル化や地域資源を活用したグリーン化に対応した「山口型スマート技術」や、気候変動に対応できる技術等、研究開発から実装までの取組を加速化します。

(3) 連携・交流の推進

地域資源の高付加価値化の推進や、広く県民に活用される拠点となるよう、オープンラボを活用した農林水産物の6次産業化の取組支援や地域との交流イベントを通じた農林業に対する理解を促進します。



「農林業の知と技の拠点」本館

農林総合技術センターの業務体制（令和5年度～）

所長 次長

- ・総務課：総務、服務、施設・財産管理、予算総括、経理等

企画戦略部

- ・企画・連携 G：研究の企画・予算調整、知的財産活用、研究評価、産学公連携等
- ・技術革新普及 G：作物等専門技術の指導総括、革新的技術支援、普及活動と研究の調整

農林業技術部

- ・農業技術研究室
普通作物研究 G：普通作物に係る育種開発・栽培技術等の研究
野菜研究 G：野菜に係る育種開発・栽培技術等の研究
果樹研究 G：落葉果樹に係る育種開発・栽培技術等の研究
原種生産 G（美祿市駐在）：水稲・麦類・大豆の原原種、原種の生産配付
- ・環境技術研究室
土壌環境 G：土壌・肥料、農薬に関する研究
病害虫管理 G：病害虫に関する研究
発生予察 G：病害虫発生予察、農薬適正使用の指導
- ・林業技術研究室
生産利用 G：木材の生産利用に関する研究
森林保全 G：森林機能の保全に関する研究
- ・経営高度化研究室
経営 G：担い手の育成、経営高度化支援、新技術導入の経営評価
鳥獣 G：鳥獣被害対策の研究
食品加工 G：県産農林産物の加工技術、品質保持等の研究
- ・柑きつ振興センター：柑きつの研究、実証展示、研修
- ・花き振興センター：花きの研究、実証展示、研修、育成品種の実種生産

農林業担い手支援部（農業大学校）

- ・教務課：学生教育・指導
- ・学生支援課
土地利用 G：水田複合経営に関する教育・指導
園芸 G：野菜、花き、果樹経営に関する教育・指導
畜産 G：酪農、肉用牛経営に関する教育・指導
- ・社会人研修室
農業研修 G：農業の担い手育成の研修・就業支援
林業研修 G：林業の担い手育成の研修・就業支援

畜産技術部

- ・家畜改良研究室
やまぐち和牛改良繁殖 G：やまぐち和牛に関する研究
特産開発 G：オリジナル地鶏等に関する研究
- ・放牧環境研究室
山口型放牧 G：山口型放牧に関する研究
飼料・環境 G：自給飼料、畜産環境等に関する研究
- ・育成業務課：預託牛の哺育、育成

II 推進目標

「やまぐち農林水産業振興計画」を踏まえ、推進目標を次のとおりとします。

人材育成の強化

農林水産事務所や市町・団体等と連携し、中核経営体や新規就業者の確保・育成を図ります。

目標項目	R3 (現状)	R8 (目標)
農業の新規就業者数 (累計：R4～R8)	100人	600人
林業の新規就業者数 (累計：R4～R8)	35人	200人
農業大学卒業生の進路決定率	100%	100%
農業大学社会人研修生の就農・就業率	100%	100%

新技術開発の強化

研究開発成果として、山口型スマート技術の研究開発を推進し、社会実装や知的財産権の確保を図ります。

目標項目	R3 (現状)	R8 (目標)
センターで開発したデジタル・グリーン技術の現場実装件数 (累計：R4～R8)	2件	12件
新品種登録出願数 (累計：R4～R8)	49件	56件
特許・実用新案権出願数 (累計：R4～R8)	37件	40件

連携・交流の推進

農林業や食に対する理解促進や地域資源の高付加価値化を推進するなど、県民に開かれた連携・交流を進めます。

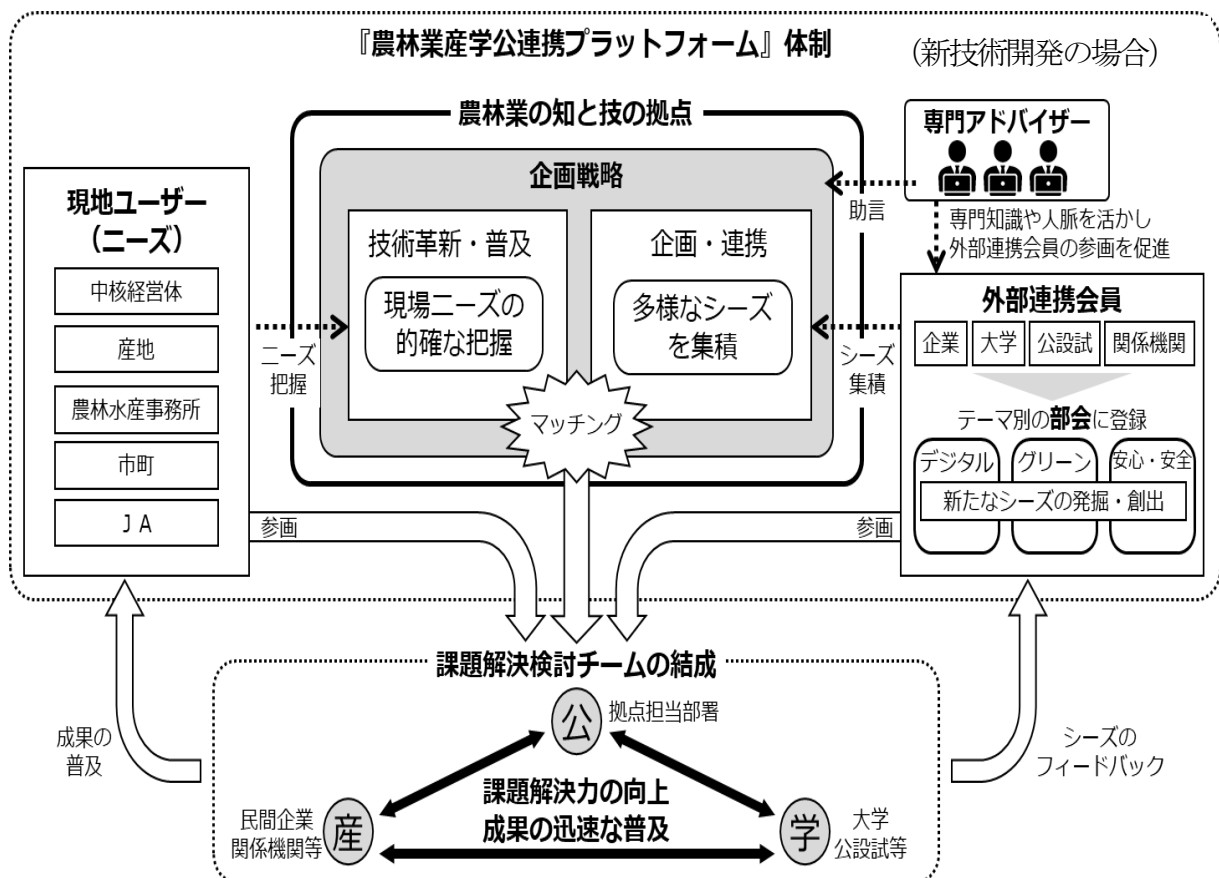
目標項目	R3 (現状)	R8 (目標)
拠点施設等利用者数	2,953人/年	4,000人/年

Ⅲ 農林業産学公連携プラットフォーム体制の構築（体制整備）

本県農林業の将来を担う人材の育成、生産性向上につながる新技術の開発・実装等に一体的に取り組むため、多様な主体との連携を強化する「産学公連携プラットフォーム体制」を構築し、課題解決力を向上します。

[取組例：新技術開発]

- ・ 山口県農林業の現場課題の解決に連携して取り組む主体（関係団体、民間企業、大学等）を「外部連携会員」として、積極的に募集・登録します。
- ・ 多様な知見・人脈を持つ有識者を「専門アドバイザー」として招へいし、段階に応じた適切な助言を行うなど、課題解決に向けた支援を行います。
- ・ 現場ニーズの抽出と課題解決に必要なシーズを集積し、適切なマッチングにより、課題の早期解決を図ります。
- ・ 外部連携会員の情報交換の場として、「テーマ部会（デジタル、グリーン、安心・安全等）」を設置し、シーズの蓄積や新たなシーズの発掘・創出を行います。



1 人材育成

農林業の多様な人材や中核経営体の安定的な確保・育成に向け、募集から学修・研修、就業、定着までの一貫した支援体制により、新規就業者の安定確保とともに、意欲ある担い手の経営基盤強化に向けた支援や企業の新規参入の促進など、人材育成の取組の充実・強化を図ります。

そのため、「農林業の知と技の拠点」形成を契機に、国や大学、研究機関をはじめ、高校や農業法人、外部専門家との連携を一層強化し、学生教育や社会人研修の再編・強化を行うとともに、現場への支援と情報共有を図り、求められる人材の確保・定着・育成を促進します。

(1) 学校教育等と連携した農林業の人材確保と理解促進

- ① 県内高校等と連携した交流講義やプロジェクト等の強化
- ② 本県の特性に応じた人材の確保、育成
 - 学科再編等による、水田における複合経営で活躍する人材を確保・育成
 - 中山間地域で活躍できるよう、安全な刈払や伐木作業の技術、特用林産物の生産技術等の基礎的な林業学修を新規導入

(2) 実践的な学修・研修による中核経営体を支える人材の育成

- ① 生産性向上等を実現するスマート技術の学修・研修強化
 - スマート農機操作実習や大規模経営向け省力的管理手法、環境制御技術を利用した園芸技術、受精卵移植および効率的牛群管理などの先進技術学修の拡充
- ② 経営管理能力の向上を図る実践の場の設置・活用
 - 生産物販売や新商品開発の事業を行う場（農大生の会社(仮称)）を設置し、経営管理能力やビジネス感覚を実践的に学修

(3) 就業先の実情を踏まえた就農・就業意識の醸成と定着支援

- ① 多様なニーズに対応した研修メニューの拡充
 - 機械の基礎メンテナンス、パイプハウスの建設実践および農業・林業の複合経営を支援するセミナーの開催など、ニーズに柔軟に対応した研修の強化
- ② 品質管理や効率的農場管理など、経営力向上研修の強化
 - 生産物の安心・安全の確保や経営規模拡大に対応できる効率的な経営管理手法を学ぶ、国際水準 GAP やトヨタ生産方式による農場管理を学ぶ研修の拡充

- ③ 高度な技能を持つ林業技能者育成研修の強化
- 実践的な高性能林業機械研修や林業架線作業研修、メーカー等と連携した林業機械操作やスマート技術研修、VR 等の先端技術を活用した安全衛生教育等を充実
- ④ 農林業現場と連携した定着支援と就農・就業後のフォローアップ
- 現地研修の受入や就業協議等を通じて、現場ニーズの把握とニーズに対応した学修・研修を充実するなど、現場での就業受入および就業後の定着をきめ細やかに支援



園芸の実習



畜産の実習



社会人就農研修



伐木造材技術習得研修

2 新技術開発

世界的な気候変動や情勢変化、消費者需要の動向、県内生産現場の状況変化等に的確に対応できるよう、スマート技術等の導入による省力化・高品質化に向けた栽培技術や、地域資源等を活用した環境負荷低減や脱炭素化を図るグリーン技術、気候変動に対応した安心・安全につながる新たな技術、多様な視点を踏まえた新品種育成や機能性評価等による経営向上につながる技術など、研究開発から現地実装までの取組を強化します。

そのため、農林業産学公連携プラットフォーム体制の機能を発揮し、国や大学、民間企業等、他の研究機関との連携を一層強化し、多様化する生産現場の課題解決に向けて、効率的な研究開発と迅速な現地実装を推進します。

(1) 本県の特성에応じた「山口型スマート技術」の開発・実装【デジタル】

[農業技術研究室]

- 高品質な酒米の安定生産、供給を可能とするデータクラウドシステムの構築
- 施設園芸デジタル化による栽培支援システムの構築
- 果樹管理サポートシステム及びロボット技術による労働負担軽減技術の開発

[環境技術研究室]

- AIを用いた主要害虫の長期予測と防除システムの構築

[林業技術研究室]

- 自動化・無人化技術を活用した林業技術体系の構築

[柑きつ振興センター]

- AI制御技術等を活用した柑きつ園の養水分管理技術等の開発

[花き振興センター]

- 需要に合わせた供給を実現する県オリジナル花き出荷予測・調整技術の開発

[家畜改良研究室]

- AIを活用した「やまぐち和牛」超音波肉質診断システムの構築

[放牧環境研究室]

- 山口型放牧における放牧牛の省力的看視技術の開発

(2) 環境負荷低減・脱炭素化につながる技術の開発・実装【グリーン】

[農業技術研究室]

- 陽熱プラスを組み合わせたタマネギ直播体系の確立
- 地域資源を活用したソーラーシェアリング技術の開発
- スマート農業技術を活用した水稻有機栽培技術の確立
- 輪作体系における持続的な小麦生産の実現に向けた減化学肥料・減化学農薬栽培技術の確立

- 資源循環型農業による大豆の生産コスト低減と地鶏への多給技術の確立
(部間連携)

[環境技術研究室]

- 大規模栽培に対応したイチゴの総合防除体系の確立

[林業技術研究室]

- 主伐に対応した新たな低コスト作業システムの確立
- 新たな品種等の導入による低コスト造林技術の確立
- 実生コンテナ苗の育苗期間短縮技術の開発

[経営高度化研究室]

- 資源循環型農業による大豆の生産コスト低減と地鶏への多給技術の確立
(部間連携)

[柑きつ振興センター]

- 生物農薬およびマルドリシステムの活用等による化学農薬・肥料削減技術の確立

[家畜改良研究室]

- 資源循環型農業による大豆の生産コスト低減と地鶏への多給技術の確立
(部間連携)

(3) 気候変動等に対応した安心・安全につながる技術の開発・実装【安心・安全】

[農業技術研究室]

- ナシ改良むかで整枝に適した雨よけと耐病性品種を組み合わせた栽培技術の確立

[環境技術研究室]

- AIを用いた主要害虫の長期予測と防除システムの構築 (再掲)

[林業技術研究室]

- ドローンによる急傾斜小面積崩壊地における航空実播技術の開発実証

[経営高度化研究室]

- 山口型簡易捕獲ワナによる捕獲効率の向上実証
- アライグマ・ヌートリアの被害対策技術の向上

[花き振興センター]

- 耐暑性のあるリンドウの品種開発および耐暑性評価方法の検討

(4) 高付加価値品種の育成等、所得向上につながる技術の開発・実装

[農業技術研究室]

- 早生の酒米新品種の早期育成
- オミックス統合解析による葉ネギ品種の耐暑性と機能性に関する遺伝子の

探索

〔林業技術研究室〕

- 山口県産原木生シイタケの保存方法の確立（部間連携）

〔経営高度化研究室〕

- 地鶏「長州黒かしわ」の香りと風味に関する研究
- 「長州黒かしわ」の品質を保持する貯蔵・加工方法の研究
- 山口県産原木生シイタケの保存方法の確立（部間連携）

〔花き振興センター〕

- やまぐちオリジナルユリの花粉で汚れない新品種育成と長期球根貯蔵技術の確立
- 生産性の高いやまぐちオリジナルリンドウ新品種の育成および品種特性に応じた省力栽培管理技術の確立

〔家畜改良研究室〕

- 黒毛和種における肉質形質のゲノミック評価手法の確立
- 「長州黒かしわ」種鶏の安定生産に係る研究

（5）中核経営体等の経営安定対策につながる研究

〔農業技術研究室〕

- らくラックを活用した障害者雇用によるイチゴ栽培実証

〔経営高度化研究室〕

- 集落営農法人就業者が農閑期に所得を確保する手法の検証



統合環境制御装置



自動運搬ロボット



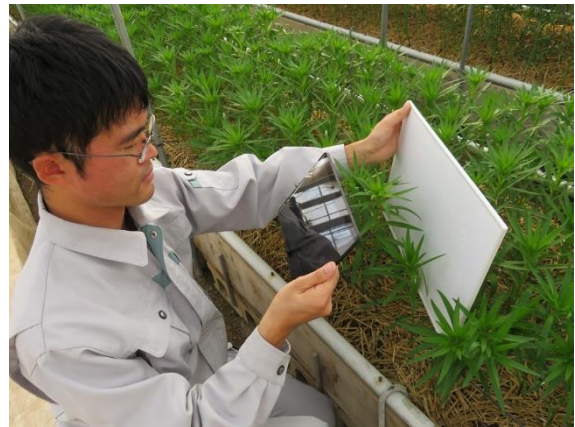
小麦A I 画像撮影



柑きつドローン防除



GPS によるヌートリア行動調査



オリジナルユリの画像解析



地上レーザによる森林計測



林業の自動化・無人化に向けた研究（地拵え）



種雄牛（花清桜号）



長州黒かしわ

3 連携・交流

農林業関係団体をはじめ、生産者、消費者等と積極的な連携・交流を進めるとともに、総合相談・情報発信機能を強化します。

(1) 地域資源の価値を高める6次産業化等の支援

- ① やまぐち6次産業化・農商工連携サポートセンターと連携し、オープンラボを活用した加工品等の試作や改善の取組を支援します。
- ② 研究の知見を活かした加工技術や栄養成分に関する助言等商品化へ向けた支援を行います。
- ③ 農林業産学公連携プラットフォーム体制の機能を発揮し、課題に応じて加工技術を持つ事業者や企業とのマッチングを強化し、地域振興につながる取組を支援します。

(2) 農林業や食に対する理解促進および情報発信機能の強化

- ① 連携交流館や拠点内施設を活用し、農林業体験や公開講座等を通じ、県民との交流を深め、農林業や食に対する理解促進を図ります。
- ② 現場に普及できる研究成果をはじめ、即戦力となる人材の育成に向けた農大教育や現場からの幅広いニーズに対応した社会人研修の取組、農林水産物を活用した商品の販売イベントなど、拠点の取組を積極的に情報発信します。



「農林業の知と技の拠点」連携・交流館

V 知的財産の創造と活用

山口県種苗条例（令和5年4月制定予定）を踏まえ、本県の気候や土壌に適し、新たな需要の創出につながる品種の開発や独自性を有する生産技術に係る知的財産権の適切な管理、保護・活用を図ります。

1 知的財産の創造

- (1) 新たな品種開発は、政策目標に沿って重点品目に絞り実施します。
- (2) 新たな品種や技術は、実用化・商品化を見据え、効果的に活用する観点から、品種育成者権、特許権や実用新案権等の権利化を積極的に推進します。

2 権利の保護・管理

- (1) 知的財産や申請中の権利は、適正に保護・管理するよう、国・他県等との情報の共有化を図り、行政機関と連携して不正使用を抑止します。
- (2) 権利の活用状況、将来性や権利維持の必要性を一定期間毎に確認します。

3 品種・特許の活用促進

- (1) 行政、普及組織と連携し、現地適応性試験等の事前検討・評価を行い、戦略的な活用を推進するとともに、奨励品種等の安定した原種の種苗供給を行います。
- (2) 民間企業との共同研究成果となる特許技術を活用した製品化を促進するとともに、展示会や各種研修会等で許諾技術をPRし、その活用を促進します。

VI 人材育成・新技術開発に係る職員の資質向上

先端技術に関する研究を効率的・効果的に実施するとともに、得られた成果を迅速に普及するための体制づくりを進めます。

1 研究開発能力の強化及び研究活動の公正性の確保

- (1) 国・県等が実施する研修、センター独自の新任者研修、派遣研究員制度や学会への参加、外部研究機関・大学や民間企業との情報交換により、研究職員の研究開発能力や情報発信力を強化します。
- (2) 研究活動の公正性を確保するため、研究データの適正な記録・保存に努め、不正行為防止のための研究倫理教育を実施します。
- (3) 農林業の知と技の拠点施設を最大限に活用し、研究員による学生や研修生に対する教育指導力の向上を図ります。

2 普及指導員等技術職員の養成

- (1) 農業革新支援専門員による研修を通じた普及指導員等の資質向上や地域の技術課題解決を支援します。
- (2) 森林資源の循環利用に向けた取組を強化するため、地域林業を主導する行政職員や中核経営体職員等を対象に、森林・林業指導者研修を拡充します。
- (3) 国や県が実施する研修等への職員参加を支援し、資質の向上を図ります。

【分類番号一覧】

○やまぐち農林水産業振興計画における農林総合技術センター関連項目

分類番号	大項目	小項目
1	成長を支える多様な人材や中核経営体の確保・育成	②「農林業の知と技の拠点」等を核とし、日本一の担い手支援策を通じた農林漁業新規就業者の確保・定着
2	県産農林水産物のさらなる需要拡大	④「農林業の知と技の拠点」等を活かした6次産業化・農商工連携の取組強化
3	需要の変化に対応した持続可能な生産供給体制の確立	①実需者のニーズに応える農畜産物の結びつき強化・生産拡大（オリジナル品目の開発、デジタル技術活用・スマート農業機械等） ②需要にこたえる木材供給力の強化（高性能林業機械、低コスト作業システム等） ④安心・安全な農水産物の供給 ⑤防疫体制の強化（難防除病害虫の防除対策の技術確立、侵入警戒病害虫対策等） ⑥カーボンニュートラルに貢献する持続可能な農林水産業の推移（優良種苗、有機農業、自然循環機能、環境負荷軽減飼料、エリートツリー、森林バイオマス等） ⑦「農林業の知と技の拠点」等を活かした「山口型スマート技術」の研究開発（プラットフォーム、匠の技、スマート農機、ゲノム技術・高能力種雄牛、鳥獣捕獲・防護技術開発、森林施業自動化・無人化、航空レーザ計測・森林資源情報等）
4	産地の維持・拡大に向けた基盤整備と防災力強化	①生産性を高める基盤整備（エリートツリー苗木・コンテナ苗生産） ②鳥獣被害防止対策の強化（鳥獣捕獲・防護技術開発） ④農山漁村の持つ多面的機能の維持（山口型放牧） ⑤防災・減災機能の強化（山地災害復旧）

○農林業の知と技の拠点における重点取組方針

分類番号	大項目	小項目
1	人材育成	①「即戦力人材」の育成に向けた学生教育の充実 ②農林業現場からの幅広いニーズに対応した社会人研修の充実・強化
2	新技術開発	①本県の特性に合った「山口型スマート技術」の開発・普及 ②気候変動等に対応した安心・安全につながる技術の開発・普及 ③高付加価値品種等、所得向上につながる技術の開発・普及
3	連携・交流	③地域資源の価値を高める6次産業化の支援

主要な研究課題整理表（令和4年度～8年度）

【農業技術部】

令和5年3月末現在

室名	研究課題 (実施中、R5新規、予備試験含む)	研究期間	研究分野				施策体系分類	拠点重点 取組方針分類	
			デジタル	グリーン	安心安全	その他			
農業 技術 研究 室	高品質な酒米の安定生産、供給を可能とするデータクラウドシステムの構築	R4～6	○				3-①、⑦	2-①	
	スマート農業技術を活用した水稲有機栽培技術の確立	R4～6		○	○		3-⑥	2-②	
	マメ科緑肥作物を利用した小麦の減化学肥料栽培の確立	R5～7		○			3-⑥	2-②	
	ヘアリーベッチを利用した水稲乾田直播栽培の施肥量削減	R5(予備試験)		○			3-⑥	2-②	
	輪作体系における持続的な小麦生産の実現に向けた減化学肥料・減化学農薬栽培技術の確立	R4～6		○			3-⑥	2-②	
	直播栽培拡大のための雑草イネ等難防除雑草の省力的防除技術の開発	R1～6				○	3-⑥	2-③	
	わら分解促進資材による麦跡大豆の増収技術の確立	R4～5				○	3-⑥	2-③	
	資源循環型農業による大豆の生産コスト低減と地場への多給技術の確立	R5～7		○	○		3-⑥	2-③	
	麦、大豆の萌芽率向上を目的とした播種作業支援システムの開発	R5(予備試験)	○				3-①	2-③	
	農林業産学公連携プラットフォームを活用した早生の酒米新品種の早期育成	R5～9				○	3-①	2-③	
	飼料用米新品種「西海316号」の原種、原原種生産	R5～				○	3-①	2-③	
	生分解性緩効性肥料施用試験	R4～		○			3-⑥	2-②	
	県種苗条例に基づく優良原種の生産・配付	R5～9				○	3-⑥		
	施設園芸デジタル化による栽培支援システムの構築	R4～6	○				3-①、⑦	2-①	
	地域資源を活用したソーラーシェアリング技術の開発	R5～7		○			3-⑥	2-②	
	夏の異常高温を回避する畑サビ育苗技術の確立	R3～5				○	3-⑥	2-②	
	イチゴの周年栽培に向けた太陽光利用型植物工場システム開発	R1～		○			3-⑥	2-②	
	らくラックを活用した障害者によるイチゴ栽培実証	R4～6	○				1-②、3-⑦	2-①	
	イチゴ次世代新品種の育成（実生繁殖）			○			3-①	1-③	
	陽熱プラスを組み合わせたタマネギ直播体系の確立	R5～7		○			3-⑥	2-②	
	根こぶ病抵抗性品種「CRはなっこりー」の育成	R2～R5					3-①	2-③	
	オミックス統合解析による葉ネギ品種の耐暑性と機能性に関する遺伝子の探索	R3～5				○	3-①	2-②、③	
	葉ネギのF1親素材の改良	R5～9				○	3-①	2-③	
	果樹管理サポートシステム及ロボット技術による労働負担軽減技術の開発	R4～6	○	○			3-①、⑦	2-①	
ナシ改良むかで整枝に適した雨よけと耐病性品種を組み合わせた栽培技術の確立	R4～8		○	○		3-⑥	2-②		
樹上照射によるブドウ果皮の着色促進技術の開発					○	3-⑥	2-②		
環境 技術 研究 室	カドミウム低吸収性イネの実証試験	R2～4			○		3-④	2-②	
	省力的かつ現場で使いやすい米の無機ヒ素低減技術の開発(委託プロ)	H30～R4					3-④	2-②	
	土壌由来有害化学物質（ヒ素）のリスク管理措置の検証	H29～			○		3-④	2-②	
	土壌有害物質のモニタリング	S54～			○	○	3-④	2-②	
	農地土壌炭素調査	H25～R5		○		○	3-①		
	マイナー作物農産登録拡大支援	H30～			○	○	3-④	2-②	
	革新的な土壌データの取得方法およびデータ高付加価値化手法の開発	R5～7		○			3-⑥	2-②	
	AIを用いた主要害虫の長期予測と防除システムの構築	R3～7	○	○	○		3-⑦	2-①	
	水稲、ダイズにおける効率的なドローンを活用した防除技術の開発	R2～4	○	○			3-⑤、⑦	2-①	
	ダイズ褐色輪紋病の防除体系の確立	R3～5		○	○	○	3-⑤	2-③	
	大規模栽培に対応したイチゴの総合防除体系の確立	R4～7		○	○		3-⑤	2-②	
	施設園芸デジタル化による栽培支援システムの構築	R4～6	○	○	○		3-⑤	2-①	
	クリシギゾウムシの蒸熱処理による防除技術の開発	R2～4		○		○	3-⑤	2-②	
	省力的なIPMを実現する病害虫予報技術の開発(委託プロ)	R4～8	○	○	○		3-⑤	2-②	
	水稲加害カメムシの生態解明および低環境負荷型防除対策の確立(科研費)	R5～7		○	○	○	3-⑥	2-②	
	薬剤耐性菌検定	S54～		○	○		3-⑤		
	抵抗性害虫検定	S54～		○	○		3-⑤		
	柑 き つ 振 興 セ ン タ ー	県オリジナルかんきつ（「南津海シードレス」・「せとみ」）における施設栽培拡大に向けた低樹高栽培技術の実用化	R4～8				○	3-①	2-③
		「AI制御技術等を活用した柑きつ園の養水分管理技術等の開発」	R4～6	○	○			3-①、⑦	2-①
		柑きつ優良品種系統の育成選抜	S48～				○	3-①	2-③
植物検疫上の要求事項を満たすための体制の構築委託事業（輸出品検疫に資する調査等） 生物農薬およびマルドリシステムの活用等による化学農薬・肥料削減技術の確立		R4～6		○	○			2-②	

花き振興センター	やまぐちオリジナルの花粉で汚れない新品種育成と長期球根貯蔵技術の確立	R3~7				○	3-①	2-③	
	生産性の高いやまぐちオリジナルリンドウ新品種の育成および品種特性に応じた省力栽培管理技術の確立	R3~7				○	3-①	2-③	
	需要に合わせた供給を実現する県オリジナル花き出荷予測・調整技術の開発	R4~6	○				3-①、⑦	2-①	
	地域資源を活用したソーラーシェアリング技術の開発	R5~		○			3-⑥	2-②	
経営高度化研究室	耐暑性のあるリンドウの品種開発および耐暑性評価方法の検討(課題分析)	R5		○			3-①	2-③	
	山口県における新規就農者(自営就農者)の就業農態、課題の解明	H31~R4				○	1-②	1-①、②	
	集落営農法人就業者が農閑期に所得を確保する手法の検証	R3~5				○	1-②	1-①、②	
	経営計画作成支援システムによる集落営農法人の収益改善手法の検討	R5予備調査	○			○	1-②	1-①、②	
	陽熱プラスを組み合わせたタマネギ直播体系の確立(作業体系・経営評価部分)	R5~8		○			3-⑥	2-②	
	アライグマ・ヌートリアの被害対策技術の向上	R2~5	○			○	3-⑦、4-②	2-①	
	侵入防止柵と連動した囲いわなによる捕獲効率の実証	R3~4				○	3-⑦、4-②	2-①	
	地域に即したICT捕獲器導入に向けた検証	R4~	○			○	3-⑦、4-②	2-①	
	山口型簡易捕獲ワナによる捕獲効率の向上実証	R5~7				○	3-⑦、4-②	2-①	
	機能的表示食品に向けた県産農産物の評価と食品素材の開発	R2~4				○	2-④	2-③	
	山口県産原木生シイタケの保存方法の確立	R5~7				○	2-④	2-③	
	イチゴの長距離輸送を可能とする鮮度保持技術の確立	R3~5				○	2-④	2-③	
	地鶏「長州黒かしわ」の香りや風味に関する研究	R3~6				○	3-①	2-③	
	地鶏「長州黒かしわ」の品質を保持する貯蔵方法及び加工方法の研究	R3~6				○	3-①	2-③	
	資源循環型農業による大豆の生産コスト低減と地鶏への多給技術の確立(肉質評価関係)	R5~7		○	○		3-⑥	2-②	
	黒かしわの官能特性改善のための飼養方法の検討	R5予備試験				○	3-①	2-③	
	黒かしわを対象とした一般消費者の嗜好性の検討	R5予備試験				○	3-①	2-③	
	林業技術研究室	自動化・無人化技術を活用した林業技術体系の構築	R4~6	○	○	○		3-②、⑦	2-①
		主伐に対応した新たな低コスト作業システムの確立	H31~5	○	○			3-②、⑦	2-①
		新たな品種等の導入による低コスト再造林技術の確立	H31~6		○			3-⑥	2-③
実生コンテナ苗の育苗期間短縮技術の開発		R2~5	○	○			4-①	2-③	
病害を抑える山口県オリジナル林業用コンテナ苗培土の開発		R3~5		○			4-①	2-③	
林業従事者の傾斜地作業負担軽減方法開発のためのパイロット研究		R4	○		○		3-②	2-③	
ドローンによる急傾斜小面積崩壊地における航空実播技術の開発実証		R5~7	○		○		4-⑤	2-②	
山口県産原木生シイタケの保存方法の確立		R5~7				○	2-④	2-③	

【畜産技術部】

室名	研究課題 (実施中、R5新規、予備試験含む)	研究期間	研究分野 (該当分野に○印、複数可)				施策体系分類	拠点重点 取組方針
			デジタル	グリーン	安心安全	その他		
家畜改良研究室	需要に即した飼料自給率の高い黒毛和種肉用牛生産技術の開発	R2~6				○	3-①	2-③
	黒毛和種における肉質形質のゲノミック評価手法の確立	R4~5				○	3-①	2-③
	見鳥ウシの体内受精採卵に関する研究	H27~				○		
	経膈採卵・体外受精(OPU-IVF)による胚生産の効率化に関する研究	H28~				○		
	黒毛和種繁殖雌牛の改良に関する研究	H30~				○	3-①	2-③
	A Iを活用した「やまぐち和牛」超音波肉質診断システムの構築	R4~6	○				3-①、⑦	2-①
	酪農経営における夏季の生産性向上	R4~6				○	3-⑥	2-②
	リモートセンシングを用いた養鶏産業における労力軽減システムの構築に関する研究 ー画像解析による体測システムの開発ー	H30~R4	○				3-①、⑦	2-①
	リモートセンシングを用いた養鶏産業における労力軽減システムの構築に関する研究 ー地鶏の維持改良のための育種技術の開発ー	H30~R4				○	3-①、⑦	2-①
	「長州黒かしわ」種鶏の安定生産に係る研究 ー種鶏の安定供給体制の維持・長州黒かしわの改良ー	R3~5				○	3-①	2-③
	「長州黒かしわ」種鶏の安定生産に係る研究 ーPGS凍結保存技術及びそれを用いた復元技術の確立ー	R3~5				○	3-①	2-③
	資源循環型農業による大豆の生産コスト低減と地鶏への多給技術の確立	R5~7		○	○		3-⑥	2-②
	地鶏「長州黒かしわ」の香りや風味に関する研究	R3~6				○	3-①	2-③
	地鶏「長州黒かしわ」の品質を保持する貯蔵方法及び加工方法の研究	R3~6				○	3-①	2-③
放牧環境研究室	山口型放牧における放牧牛の省力的看視技術の開発	R2~5	○				3-⑦、4-④	2-①
	リモートセンシングデータを活用した効率的な飼料作物等の生産技術の確立	R2~5	○				3-⑥	2-①
	ソルガム類及びイタリアンライグラスの品種比較試験	H12~				○	3-⑥	2-②